

2 神戸市の人口

(1) 人口の推移

明治22年9人でスタート。戦前は65人まで増加したが、その後25人に急減。戦後、増加を続け震災直前は過去最高の102人となったが、震災で95人に減少、現在101人に回復

明治22年(1889年)市制が実施され神戸市が誕生しました。当時の市域は、現在の中央区、兵庫区を中心とした区域であり、面積は21.28 km²、現在(550.28 km²)の26分の1に過ぎません。その当時の人口は134,704人でした。平成12年国勢調査の人口を基準(100人)とすると、人口はわずか9人でした。

その後、人口は順調に増え、第1回国勢調査が行われた大正9年(1920年)には41人となりました。昭和5年(1930年)の国勢調査では53人と50人を超え、昭和15年の国勢調査では戦前で最も多い65人を記録しました。しかし、終戦直後の昭和20年(1945年)人口調査では25人まで減少しました。その後、昭和30年(1955年)には66人と戦前の水準にまで回復し、順調に増加を続けた結果、昭和55年(1980年)には92人、平成2年(1990年)には99人となりました。

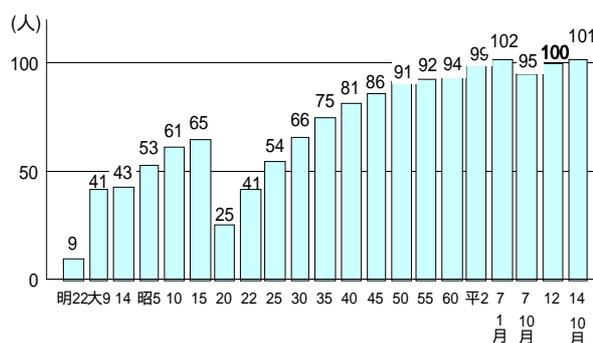
そして、阪神淡路大震災直前の平成7年(1995年)1月1日の推計人口()は、過去最高の102人まで増加していました。しかし、震災のため多くの市民が犠牲となり市外への避難も余儀なくされ、平成7年10月1日の国勢調査では7人(96,572人)減少し95人となりました。震災復興に伴い、人口の回復も進み、平成12年国勢調査では100人、平成14年10月1日の推計人口では101人と震災前の99.3%にまで回復しています。

推計人口：直近国勢調査結果を基礎に毎月の住民基本台帳及び外国人登録の届出数を加減し算出したもの

図3 神戸市の人口構成(2000年)
(149万人 = 100人)

男 48人 (71万人)		女 52人 (78万人)	
15歳未満 14人 (21万人)	15～64歳 69人 (103万人)	65歳以上 17人 (25万人)	
西区 16人	垂水区 15人	北区 15人	東灘区 13人
		須磨区 12人	灘区 8人
		中央区 7人	兵庫区 7人
			長田区 7人

図4 神戸市の人口推移(国勢調査)



注：明治22年は公簿人口、昭和20年は人口調査、平成7年1月、14年10月は推計人口

表1 神戸市の人口推移(国勢調査)

人口、世帯数	明治22 (1889)	大正9 (1920)	昭和5 (1930)	15 (1940)	25 (1950)	35 (1960)	45 (1970)	55 (1980)	平成2 (1990)	7(1月) (1995)	7(10月) (1995)	12 (2000)	14 (2002)
	指数(平成12年 = 100人)												
人口	9	41	53	65	54	75	86	92	99	102	95	100	101
世帯数	2	9	12	14	13	19	25	31	36	39	36	41	42
	実数												
人口	134,704	608,644	787,616	967,234	804,501	1,113,977	1,288,937	1,367,390	1,477,410	1,520,365	1,423,792	1,493,398	1,510,468
世帯数	34,268	138,970	178,325	216,076	192,977	279,599	377,473	462,281	539,151	580,012	536,508	606,162	628,280

注) 明治22年は公簿人口、平成7年1月、14年10月は推計人口

(2) 他都市との比較

神戸市 100 人に対し，大阪市 174 人，京都市 98 人，明石市 20 人，芦屋市 6 人

神戸市人口を 100 人とすると，全国は 8,499 人となり，全国総人口に占める神戸市人口の割合は 1.18% です。

大都市で人口が最も多いのは東京都区部の 545 人（神戸市の 5.4 倍）であり，横浜市の 229 人（同 2.3 倍），大阪市の 174 人（同 1.7 倍），名古屋市の 145 人（同 1.5 倍）と続いています。人口が神戸市に最も近いのは京都市の 98 人です。

神戸市を除く兵庫県下の都市では，人口の多い順に姫路市 32 人，尼崎市 31 人と続いており，神戸市の約 3 分の 1 の人口です。神戸市に接する市町は，東から芦屋市 6 人，西宮市 29 人，宝塚市 14 人，三田市 7 人，吉川町 1 人，三木市 5 人，稲美町 2 人，明石市 20 人となっています。なお，兵庫県は全体で 372 人となり，兵庫県総人口に占める神戸市人口の割合は 26.9% です。

図5 周辺市町の人口規模(平成12年国勢調査 神戸市100人)



表2 大都市の人口（平成12年国勢調査）

都 市	指 数 (神戸市100人)	実 数
東京都区部	545	8,134,688
横浜市	229	3,426,651
大阪市	174	2,598,774
名古屋市	145	2,171,557
札幌市	122	1,822,368
神戸市	100	1,493,398
京都市	98	1,467,785
福岡市	90	1,341,470
川崎市	84	1,249,905
広島市	75	1,126,239
仙台市	68	1,008,130
北九州市	68	1,011,471
千葉市	59	887,164
(参考) 全 国	8,499	126,925,843

表3 周辺市町の人口（平成12年国勢調査）

市 町	指 数 (神戸市100人)	実 数
姫路市	32	478,309
尼崎市	31	466,187
西宮市	29	438,105
明石市	20	293,117
加古川市	18	266,170
宝塚市	14	213,037
伊丹市	13	192,159
川西市	10	153,762
三田市	7	111,737
芦屋市	6	83,834
三木市	5	76,682
稲美町	2	32,054
吉川町	1	9,435
淡路町	0 1)	6,834
(参考) 兵庫県	372	5,550,574

1) 小数点以下を四捨五入しているため，指数としては0となる。

(3) 男女，年齢別

男性 48 人に対し，女性 52 人と女性の方が 4 人多い

全人口 100 人のうち男性が 48 人，女性が 52 人と女性の方が 4 人多くなっています(人口性比 91.5)。全国では 100 人のうち男性 49 人，女性 51 人(人口性比 95.8)となっており，神戸市は全国平均よりも女性の割合が大きくなっています。

15 歳未満(14 人)よりも 65 歳以上(17 人)の方が多い

年齢別では，15 歳未満人口(年少人口)は 14 人で，1 歳の者 1 人，2 歳の者 1 人と各年齢 1 人ずついます。15~64 歳人口(生産年齢人口)は 69 人，65 歳以上人口(老年人口)は 17 人で，そのうち 75 歳以上は 6 人います。

全国では，100 人のうち 15 歳未満は 15 人，15~64 歳は 68 人，65 歳以上は 17 人(うち 75 歳以上 7 人)となっています。神戸市は全国平均とほとんど差はありません。15 歳未満が全国より 1 人少なくなっています。

75 歳以上では男性 2 人に対し，女性は 4 人

年齢別の男女の人数では，15 歳未満では同数の 7 人，15~64 歳でも男性 34 人に対し女性 36 人とほとんど差がないのに対し，65 歳以上では平均寿命が女性の方が長いことから，男性の 7 人に対し女性が 10 人と女性が多くなっています。75 歳以上では，男性 2 人に対し女性が 4 人と女性が男性の倍となっています。

人口性比：女性 100 人に対する男性の数

図6 人口性比

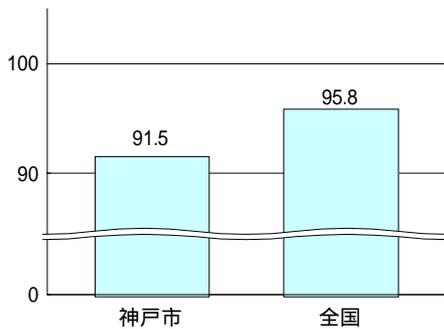


図7 年齢(3区分)別人口

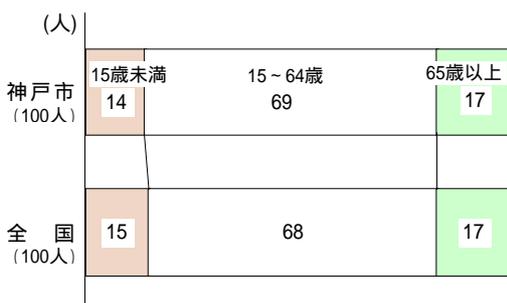


表4 年齢(3区分)別人口

年齢区分	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000人)
総数	100	100	1,493,398	126,926
15歳未満	14	15	206,703	18,472
15~64歳	69	68	1,033,013	86,220
65歳以上	17	17	252,427	22,005
うち75歳以上	6	7	96,727	8,999
男	48	49	713,684	62,111
15歳未満	7	7	105,893	9,459
15~64歳	34	34	501,234	43,281
65歳以上	7	7	105,819	9,222
うち75歳以上	2	3	34,471	3,195
女	52	51	779,714	64,815
15歳未満	7	7	100,810	9,013
15~64歳	36	34	531,779	42,938
65歳以上	10	10	146,608	12,783
うち75歳以上	4	5	62,256	5,804

50～54歳と25～29歳が最も多い8人，0～4歳は4人と少子化傾向

次に5歳階級別の人口をみてみましょう。50～54歳と25～29歳が最も多い8人で，2つのピークがあります。50～54歳は戦後すぐの第1次ベビーブームの世代で，25～29歳はその子供達の第2次ベビーブームの世代です。0～4歳，5～9歳はそれぞれ4人で70～74歳の5人よりも少なく，少子化の傾向が表れています。

図8 5歳階級別人口ピラミッド
(平成12年,実数)

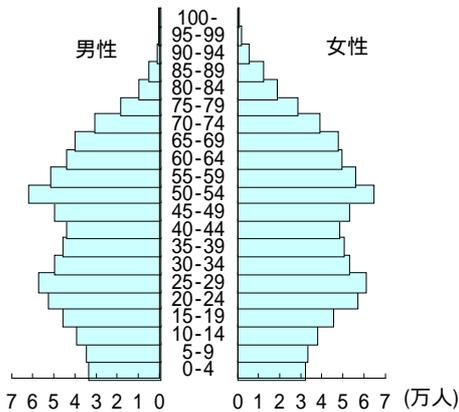


表5 年齢(5歳階級)別人口

年齢	指数 (総人口 100人)	実数	年齢	指数 (総人口 100人)	実数
総数	100	1,493,398			
0～4歳	4	64,553	45～49歳	7	102,395
5～9歳	4	66,514	50～54歳	8	125,716
10～14歳	5	75,636	55～59歳	7	107,265
15～19歳	6	90,432	60～64歳	6	92,926
20～24歳	7	108,484	65～69歳	6	87,064
25～29歳	8	116,998	70～74歳	5	68,636
30～34歳	7	101,486	75～79歳	3	45,798
35～39歳	6	95,245	80～84歳	2	27,466
40～44歳	6	92,066	85歳以上	2	23,463

(4) 配偶関係

有配偶者はちょうど半分の50人，死別者7人，離別者3人

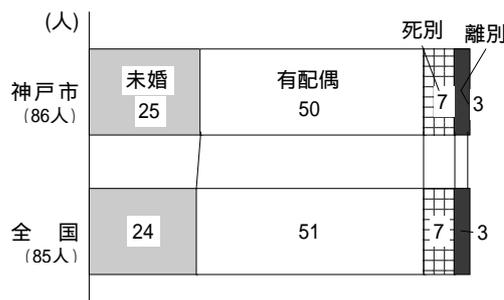
15歳以上人口86人のうち，未婚者25人(男性13人,女性12人)，有配偶者50人(男性25人，女性25人)，死別者7人(男性1人，女性6人)，離別者3人(男性1人，女性2人)となっています。全人口100人のちょうど半分の50人が配偶者を持っていることとなります。全国と余り差はありませんが，未婚の女性が全国の10人に対し，神戸市は12人と少し多いめです。

表6 配偶関係別15歳以上人口

配偶関係は，届出の有無にかかわらず，実際の状態により，次のとおり区分しています。

- 未婚 まだ結婚をしたことのない人
- 有配偶 届出の有無に関係なく，妻又は夫のある人
- 死別 妻又は夫と死別して独身の人
- 離別 妻又は夫と離別して独身の人

図9 配偶関係別15歳以上人口



配偶関係	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000人)
総数	86	85	1,285,440	108,224
未婚	25	24	373,985	29,881
(未婚率%)	-	-	(29.1)	(27.6)
有配偶	50	51	739,951	64,883
死別	7	7	99,205	8,630
離別	3	3	51,154	3,846
男	41	41	607,053	52,503
未婚	13	13	192,712	16,680
(未婚率%)	-	-	(31.7)	(31.8)
有配偶	25	26	368,900	32,448
死別	1	1	15,913	1,397
離別	1	1	17,608	1,418
女	45	44	678,387	55,721
未婚	12	10	181,273	13,201
(未婚率%)	-	-	(26.7)	(23.7)
有配偶	25	26	371,051	32,435
死別	6	6	83,292	7,233
離別	2	2	33,546	2,428

3 世帯の状況

(1) 世帯人員

一般世帯 40 のうち 1人世帯が 13 と最も多い - 世帯の小規模化が進展 -

世帯数は 100 人当たり 41 世帯で、1 世帯当たりの人員は 2.46 人となっています。また、学生寮、病院、社会施設などの施設等に住む人を除いた一般世帯は 40 世帯です。

一般世帯 40 世帯を世帯人員別にみると、1人世帯が 13 世帯と最も多く、2人世帯 11 世帯、3人世帯 7 世帯と、世帯人員が増えるに従い世帯数は減少しています。これは全国と同様の傾向ですが、全国と比べて 1人世帯、2人世帯の小規模世帯の数が多くなっています。

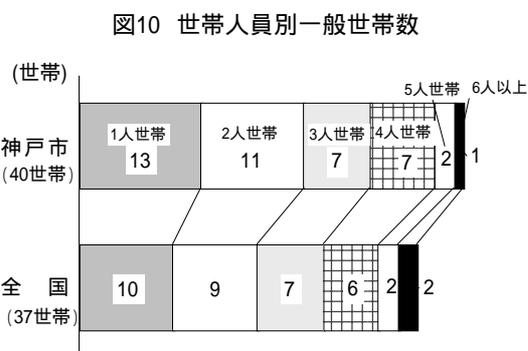


表7 世帯人員別一般世帯数

世帯人員	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000世帯)
総数	40	37	604,290	46,782
1人世帯	13	10	188,694	12,911
2人世帯	11	9	161,370	11,743
3人世帯	7	7	110,895	8,810
4人世帯	7	6	101,045	7,925
5人世帯	2	2	31,963	3,167
6人以上	1	2	10,323	2,253

(2) 家族類型

核家族世帯 25 - 目立つ夫婦のみの世帯、単独世帯の増加 -

一般世帯 40 世帯を家族類型別にみると、核家族世帯 25 世帯(夫婦のみ 8 世帯、夫婦と子供 13 世帯、ひとり親と子供 3 世帯)、単独世帯 13 世帯、その他 3 世帯となっています。単独世帯の数が全国(10 世帯)より多いめです。

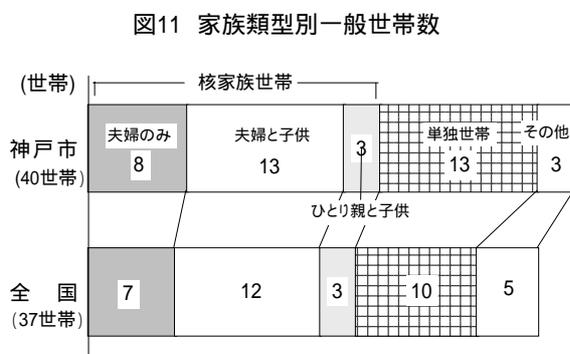


表8 家族類型別一般世帯数

家族類型	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000世帯)
総数	40	37	604,290	46,782
核家族世帯	25	22	372,390	27,332
夫婦のみ	8	7	121,019	8,835
夫婦と子供	13	12	200,982	14,919
ひとり親と子供	3	3	50,389	3,578
単独世帯	13	10	188,694	12,911
その他	3	5	43,206	6,539

(3) 高齢世帯

高齢世帯は 12，うち夫婦のみ 4，単独世帯 4

一般世帯 40 世帯のうち，高齢世帯（65 歳以上の親族のいる一般世帯）は 12 世帯で，そのうち夫婦のみが 4 世帯，単独世帯が 4 世帯，その他 5 世帯となっています。単独世帯は，男性のみが 1 世帯，女性のみが 3 世帯で，女性のみの方が圧倒的に多くなっています。高齢世帯数は全国とほぼ同じですが，女性をみの単独世帯は少し多くなっています。

図12 家族類型別高齢世帯数

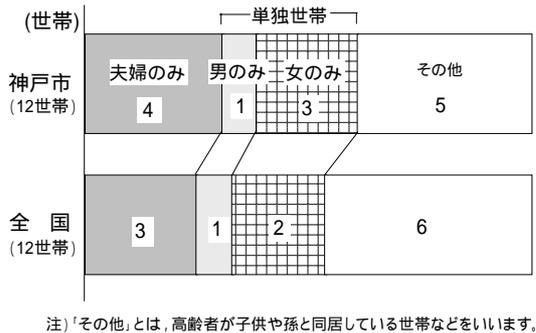


表9 家族類型別高齢世帯数

家族類型	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000世帯)
総数	12	12	180,456	15,045
夫婦のみ	4	3	57,045	3,977
単独世帯	4	2	54,684	3,032
男のみ	1	1	14,200	742
女のみ	3	2	40,484	2,290
その他	5	6	68,727	8,036
(参考) 高齢世帯の割合(%)	-	-	29.9	32.2

(4) 住居

持ち家に住む世帯は 22，民営の借家に住む世帯は 10，公営等の借家に住む世帯は 6

住宅に住む一般世帯 40 世帯のうち，持ち家に住む世帯は 22 世帯，公営，公団・公社の借家に住む世帯は 6 世帯，民営の借家に住む世帯は 10 世帯，その他給与住宅（社宅）等に住む世帯は 2 世帯となっています。公営，公団・公社の借家に住む世帯が全国（2 世帯）と比べ多くなっています。持ち家の割合（持ち家率）は全国の 61.1% に対し，神戸市は 55.2% と少し低めです。

図13 所有関係別住宅に住む一般世帯数

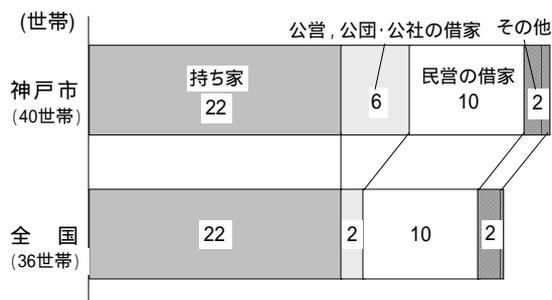


表10 所有関係別住宅に住む一般世帯数

所有関係	指数 (総人口 = 100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000世帯)
総数	40	36	591,905	45,693
持ち家	22	22	326,569	27,905
公営、公団・公社の借家	6	2	94,903	3,142
民営の借家	10	10	143,934	12,298
その他	2	2	26,499	2,348
(参考) 持ち家率(%)	-	-	55.2	61.1

4 労働力状態

(1) 労働力人口

就業者は45人、完全失業者は3人

15歳以上人口86人のうち、労働力人口()は48人(男性29人、女性19人)で、そのうち就業者が45人(男性27人、女性18人)、完全失業者3人(男性2人、女性1人)となっています。

全国では15歳以上人口85人のうち、労働力人口は52人(男性31人、女性21人)、就業者50人、完全失業者2人となっています。神戸市は全国と比べ、労働力人口は男女それぞれ2人ずつ少なく、労働力率()は、男性は全国74.8%に対し神戸市70.8%、女性は全国48.2%に対し神戸市42.7%と、男女とも全国値よりも低くなっています。

また、完全失業者は全国よりも1人多く、完全失業率()は全国4.7%に対し神戸市6.4%と1.7ポイント高くなっています。

労働力人口：15歳以上人口のうち、就業者(調査期間中収入になる仕事を少しでもした者)と完全失業者の合計。

なお、それ以外の者(家事、通学、高齢者など)は非労働力人口と区分します。

労働力率：15歳以上人口総数に占める労働力人口の割合

完全失業率：労働力人口に占める完全失業者の割合

図14 労働力状態別15歳以上人口

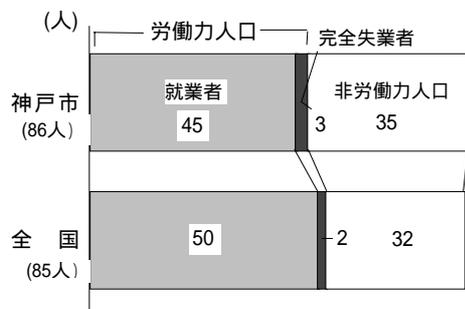
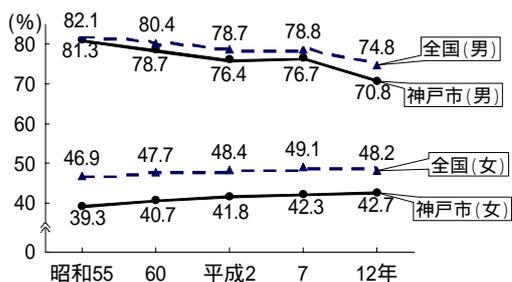


表11 労働力状態別15歳以上人口

労働力状態	指数 (総人口=100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000人)
総数	86	85	1,285,440	108,225
労働力人口	48	52	719,002	66,098
就業者	45	50	673,157	62,978
完全失業者	3	2	45,845	3,120
(完全失業率%)	-	-	(6.4)	(4.7)
非労働力人口	35	32	527,214	40,386
男	41	41	607,053	52,503
労働力人口	29	31	429,590	39,250
就業者	27	29	400,360	37,249
完全失業者	2	2	29,230	2,001
非労働力人口	10	10	151,523	12,080
女	45	44	678,387	55,721
労働力人口	19	21	289,412	26,848
就業者	18	20	272,797	25,729
完全失業者	1	1	16,615	1,118
非労働力人口	25	15	375,691	18,920

図15 労働力率の推移(神戸市,全国)
(昭和55年~平成12年)



(2) 産業別就業者

サービス業が最も多く 13 人、製造業は 7 人

就業者 45 人がどのような産業で働いているかみてみましょう。サービス業に従事する人が最も多く 13 人、卸売・小売業、飲食店が 12 人、製造業 7 人、運輸・通信業 4 人、建設業 4 人と続いています。上位 3 産業で全体の 71.2% を占めています。

全国では、15 歳以上就業者 50 人のうち最も多いのはサービス業の 14 人、卸売・小売業、飲食店 11 人、製造業 10 人、建設業 5 人となっています。上位 3 産業は同じですが、サービス業は神戸市の方が多く、製造業は神戸市の方が少なくなっています。また、神戸市は運輸・通信業が全国よりも少し多くなっています。

図16 産業大分類別15歳以上就業者数

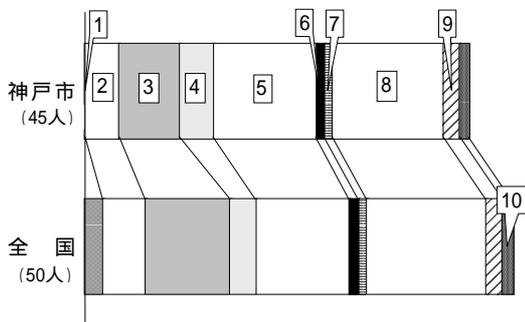


表12 産業大分類別15歳以上就業者数

産業大分類	指数 (総人口=100)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国(1,000人)
総数	45	50	673,157	62,978
1 農林水産業	0 ²⁾	2	5,470	3,173
2 建設業	4	5	54,251	6,290
3 製造業	7	10	104,268	12,228
4 運輸・通信業	4	3	55,007	3,902
5 卸売・小売業、飲食店	12	11	175,729	14,319
6 金融・保険業	1	1	20,990	1,758
7 不動産業	1	1	13,304	747
8 サービス業	13	14	199,308	17,264
9 公務(他に分類されないもの)	2	2	23,298	2,143
10 その他 ¹⁾	1	1	21,532	1,154

1) 「鉱業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「分類不能の産業」
2) 小数点以下を四捨五入しているため、指数としては0となる。

(3) 就業者の働く場所

就業者 45 人のうち市内で働く人は 35 人、4 人は大阪市へ通勤

次に就業者 45 人の働く場所をみてみましょう。神戸市内で働く人は 35 人で、そのうち「自宅で従業」が 3 人、「自宅外の自区」が 14 人、「市内他区」が 17 人と、職場が他区にある人が一番多くなっています。県内の他市町で働く人は 5 人ですが、そのうち阪神間 6 市()が 2 人、東播臨海部()が 2 人となっています。他府県で働く人は 5 人で、そのうち 4 人までが大阪市で働いています。

阪神間 6 市：尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、川西市 東播臨海部：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町

図17 従業地別市民就業者数

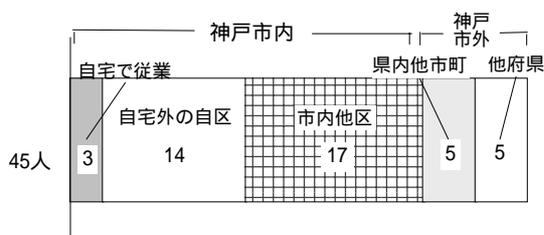


図18 市外で働く市民就業者の従業地別割合
(総数150,785人)

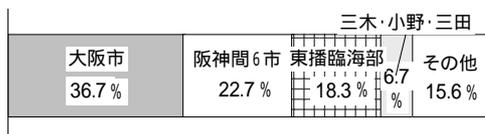


表13 従業地別市民就業者

従業地	指数 (総人口=100)	実数
総数	45	673,157
神戸市内	35	522,372
自宅で従業	3	51,828
自宅外の自区	14	214,128
市内他区	17	256,416
県内他市町	5	79,150
うち阪神間6市	2	34,203
うち東播臨海部	2	27,614
他府県	5	71,635
うち大阪市	4	55,325

5 昼間人口

(1) 昼間人口の状況

昼間人口は 103 人

- 12 人が市外へ流出，15 人が市外から流入 -

市民 100 人のうち 12 人が市外に通勤・通学していますが，反対に市外に住み市内に通勤・通学している人が 15 人います。差し引き 3 人分が多くなり昼間人口（ ）

は 103 人となります。なお，この 103 という数字は昼夜間人口比率（ ）を表しています。

一般に昼夜間人口比率が 100 を超える場合は就業地としての性格が強くなり，反対に 100 未満の場合はベッドタウンとしての性格が強くなります。

ちなみに大都市の昼夜間人口比率は，表 14 のとおりで，大阪市が最も高く就業地の性格が強く表れています。神戸市の周辺都市は，大阪市や神戸市に通勤している人が多く，100 を切っています。

昼間人口：市内に住んでいる人口（夜間人口） - 市外への通勤通学者（流出口） + 市外からの通勤通学者（流入人口）

昼夜間人口比率：昼間人口/夜間人口×100，通常は小数点第 1 位まで表示

図19 昼間人口と夜間人口の関係

注) 年齢不詳の者を除く。



表14 大都市の昼夜間人口比率

都 市	昼夜間人口比率	都 市	昼夜間人口比率
大 阪 市	141.2	広 島 市	103.4
東 京 都 区 部	137.5	神 戸 市	103.0
名 古 屋 市	117.0	札 幌 市	101.3
福 岡 市	114.6	千 葉 市	97.2
京 都 市	109.0	横 浜 市	90.5
仙 台 市	108.2	川 崎 市	87.8
北 九 州 市	103.4		

表15 周辺都市の昼夜間人口比率

都 市	昼夜間人口比率	都 市	昼夜間人口比率
姫 路 市	105.4	西 宮 市	87.8
小 野 市	97.0	加 古 川 市	86.8
高 砂 市	96.4	芦 屋 市	78.7
尼 崎 市	96.0	宝 塚 市	77.0
三 木 市	92.9	川 西 市	75.5
明 石 市	88.8	(参考)	
三 田 市	88.1	兵 庫 県	95.1

(2) 市外からの通勤者

東播臨海部 5 人，阪神間 3 人など計 12 人が市外から通勤

昼間人口のうち市内就業者（市内で働いている 15 歳以上就業者）は 47 人です。47 人のうち 35 人は神戸市内に住んでいますが，12 人は市外から通勤しています。この 12 人の住む場所をみてみましょう。

県内の他市町に住む人は 10 人で，このうち 3 人が阪神間 6 市に，5 人が東播臨海部に住んでいます。また，他府県に住む人は 2 人となっています。

図20 常住地別市内就業者数

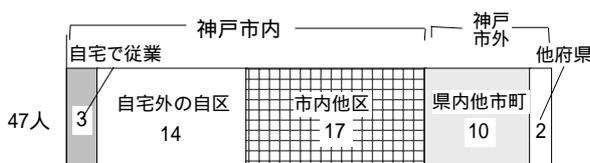


図21 市外に住む市内就業者の常住地別割合 (総数179,582人)

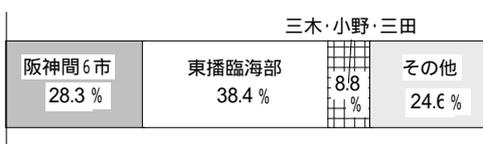


表16 常住地別市内就業者

常 住 地	指 数 (総人口 = 100)	実 数
総 数	47	701,954
神戸市内	35	522,372
自宅で従業	3	51,828
自宅外の自区	14	214,128
市内他区	17	256,416
県内他市町	10	148,229
うち阪神間6市	3	50,767
うち東播臨海部	5	68,876
他府県	2	31,353

6 居住期間

居住期間が1年以上5年未満の人が最も多く27人

100人を居住期間別にみると、「1年以上5年未満」が27人と最も多くなっています。次いで「10年以上20年未満」と「20年以上」がともに19人、「5年以上10年未満」が14人と続いています。「出生時から」は8人にすぎません。

全国の場合は「出生時から」16人、「20年以上」26人で、神戸市はこの2区分が全国よりも大幅に少なくなっています。反対に「1年未満」「1年以上5年未満」の短い期間は全国よりも多くなっています。

図22 居住期間別人口

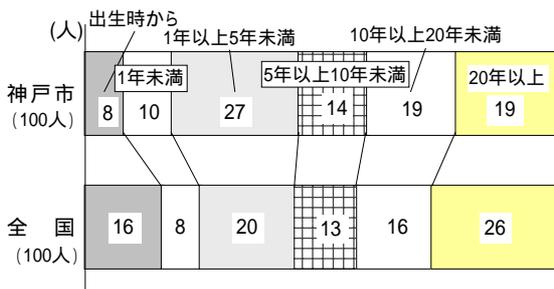


表17 居住期間別人口

居住期間	指数(平成12年総人口100人)		実数	
	神戸市	全国	神戸市	全国
総数	100	100	1,492,143	126,697
出生時から	8	16	123,353	20,267
1年未満	10	8	143,848	10,034
1年以上5年未満	27	20	400,734	25,013
5年以上10年未満	14	13	213,503	16,205
10年以上20年未満	19	16	290,131	20,833
20年以上	19	26	287,915	32,991

7 外国人

100人のうち2~3人を占め、韓国・朝鮮の国籍が最も多い

神戸市に在住する外国人は35,597人で、総人口に占める割合は2.38%です。しかし、外国人登録法に基づく登録外国人数はもう少し多く、平成14年(9月末)では44,677人(推計人口に占める割合2.96%)となっています。

総人口100人のうち外国人は、国勢調査結果では2人、登録外国人数では3人となります。最も多いのは韓国・朝鮮で、中国、アメリカと続いています。

図23 国籍別 外国人割合(国勢調査)

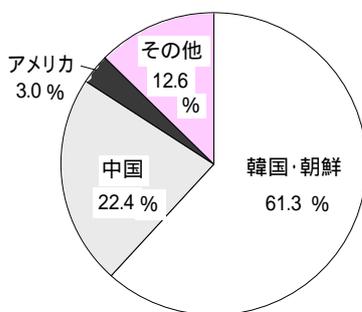


表18 国籍別外国人数

国籍	神戸市				全国	
	国勢調査	割合(%)	外国人登録	割合(%)	国勢調査	割合(%)
総数 1)	35,597	2.38	44,677	2.96	1,310,545	1.03
韓国・朝鮮	21,805	1.46	24,866	1.65	528,904	0.42
中国	7,964	0.53	11,349	0.75	252,680	0.20
アメリカ	1,067	0.07	1,304	0.09	38,575	0.03
その他	4,487	0.30	7,158	0.47	474,749	0.37
ブラジル	488	0.03	860	0.06	188,190	0.15
フィリピン	434	0.03	676	0.04	93,352	0.07
ペルー	122	0.01	229	0.02	33,478	0.03
その他	3,443	0.23	5,393	0.36	159,729	0.13

注)外国人登録は平成14年9月末現在。割合は総人口に占める割合をいう。

1) 国勢調査の総数には無国籍者及び国名「不詳」を含む。

8 区別

(1) 区別状況

西区が16人と最も多く、少ないのは中央区、兵庫区、長田区の7人

100人を区別にみると、西区が16人と最も多く、北区、垂水区が15人と続いています。一方、少ないのは中央区、兵庫区、長田区の7人で、多い区の約半分です。男女の人口差は、同じか女性の方が1人多いという結果となっています。

中央区は昼間人口が19人と夜間人口7人を大きく上回っています。

図24 区別人口(平成12年)

全市 100人						
西区 16人		北区 15人				
垂水区 15人	須磨区 12人	長田区 7人	兵庫区 7人	中央区 7人	灘区 8人	東灘区 13人

表19 区別状況(全市100人)

区	指数(平成12年総人口100人)				
	人口	男	女	昼間人口	市内 就業者
全市	100	48	52	103	47
東灘区	13	6	7	12	5
灘区	8	4	4	8	3
中央区	7	3	4	19	14
兵庫区	7	3	4	9	5
北区	15	7	8	11	4
長田区	7	3	4	7	3
須磨区	12	5	6	10	3
垂水区	15	7	8	11	3
西区	16	8	8	15	6

表20 各区の状況(平成12年国勢調査)

区	人口の推移(国勢調査)							男女別		
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年		平成12年	平成14年	男	女	人口性比
	10月	10月	10月	1月 1)	10月	10月 1)				
全市	92	94	99	102	95	100	101	48	52	91.5
東灘区	96	97	100	100	82	100	104	48	52	92.5
灘区	118	111	108	103	81	100	103	47	53	90.2
中央区	107	110	108	103	96	100	103	47	53	89.0
兵庫区	133	122	116	110	92	100	101	48	52	92.0
北区	73	79	88	96	102	100	100	48	52	91.0
長田区	155	141	130	123	92	100	99	47	53	89.8
須磨区	89	105	108	109	101	100	100	47	53	88.5
垂水区	94	99	104	105	106	100	99	48	52	91.7
西区	37	47	67	85	94	100	102	49	51	95.8
全市	1,367,390	1,410,834	1,477,410	1,520,365	1,423,792	1,493,398	1,510,468	713,684	779,714	91.5
東灘区	183,284	184,734	190,354	191,716	157,599	191,309	199,018	91,944	99,365	92.5
灘区	142,313	133,745	129,578	124,538	97,473	120,518	124,588	57,168	63,350	90.2
中央区	115,329	119,163	116,279	111,195	103,711	107,982	111,436	50,860	57,122	89.0
兵庫区	142,418	130,429	123,919	117,558	98,856	106,897	107,679	51,207	55,690	92.0
北区	164,714	177,221	198,443	217,166	230,473	225,184	224,800	107,297	117,887	91.0
長田区	163,949	148,590	136,884	129,978	96,807	105,464	104,837	49,886	55,578	89.8
須磨区	155,683	181,966	188,119	188,949	176,507	174,056	173,674	81,727	92,329	88.5
垂水区	212,758	224,212	235,254	237,735	240,203	226,230	225,050	108,246	117,984	91.7
西区	86,942	110,774	158,580	201,530	222,163	235,758	239,386	115,349	120,409	95.8

1) 推計人口

(2) 区が100人だったら(区がそれぞれ100人である場合の指数)

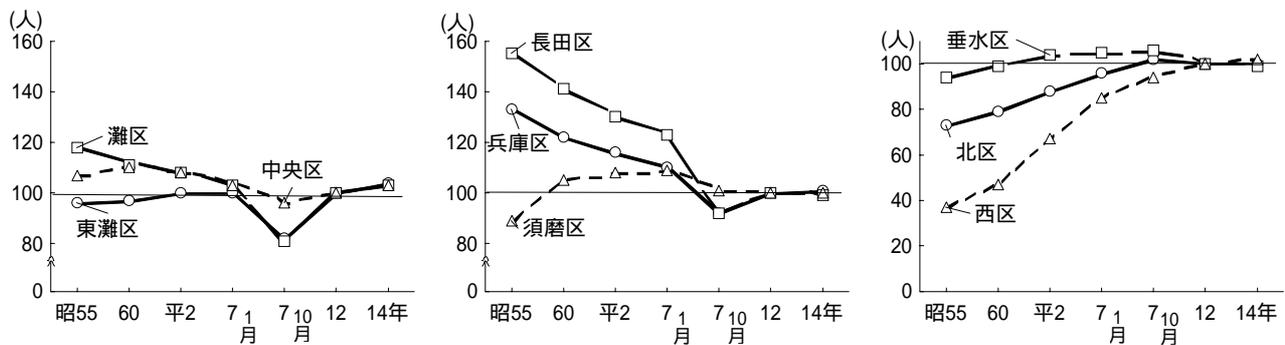
東灘区, 灘区, 中央区は震災前の人口を超える

以上は, 神戸市全体が100人とした場合の人数・世帯数ですが, 表20は平成12年国勢調査結果の各区の人口をそれぞれ100人とした場合の人数・世帯数です。

昭和55年国勢調査結果と震災直前の平成7年1月の推計人口を比べますと, 灘区(15人), 兵庫区(23人), 長田区(32人)などでは, インナーシティ現象が顕著に表れ, 人口減少が続いていたことがわかります。一方, 北区(23人増), 須磨区(20人増), 西区(48人増)などでは, 住宅団地への入居により人口の増加が続いていました。

平成7年1月以降は, 震災の影響と震災復興の状況が表れています。平成7年10月の国勢調査結果では, 震災前と比べ東灘区(18人), 灘区(18人), 兵庫区(18人), 長田区(31人)など被害の大きかった区での減少が大きい。その後の復興では, 東灘区は震災前の100人を超え104人(平成14年10月推計人口)となり, 灘区, 中央区も震災前の人口に回復しています。

図25 区別人口の推移(各区平成12年=100人)



結果を各区100人とした場合の指数)

年齢別				世帯				昼間人口	市内就業者	区	
15歳未満	15~64歳	65歳以上	75歳以上	世帯数	1人世帯	高齢世帯	高齢単身世帯				
数											
14	69	17	6	41	13	12	4	103	47	全	市
14	71	15	6	43	14	11	3	97	42	東灘	区
11	70	19	8	47	20	14	5	101	41	中央	区
10	70	20	8	51	26	15	6	260	199	兵庫	区
10	66	23	9	48	20	17	7	130	76	北	区
16	69	15	6	35	7	10	2	76	23	長田	区
12	66	22	9	44	15	17	6	105	46	須磨	区
14	70	16	6	39	10	12	3	83	26	垂	区
14	68	17	6	40	10	13	4	72	19	西	区
18	70	12	5	34	7	8	1	93	38		区
数											
206,703	1,033,013	252,427	96,727	606,162	188,694	180,456	54,684	1,536,716	701,954	全	市
26,514	135,636	28,715	10,822	81,896	27,651	20,819	6,175	186,392	80,259	東灘	区
13,621	84,105	22,768	9,211	56,560	24,018	16,358	5,481	122,185	48,950	中央	区
10,440	75,833	21,613	8,291	55,571	27,845	16,381	7,003	280,227	214,764	兵庫	区
11,027	71,015	24,841	9,739	51,070	21,910	18,545	7,530	138,828	81,656	北	区
35,459	155,444	34,221	13,309	78,390	14,812	23,065	5,153	170,827	52,666	長田	区
12,192	69,436	23,588	9,351	45,928	15,448	17,570	6,116	110,683	48,478	須磨	区
23,777	121,501	28,647	10,517	67,114	16,773	20,418	5,700	144,000	44,471	垂	区
32,138	154,437	39,576	14,493	89,385	23,288	28,391	8,232	163,274	42,288	西	区
41,535	165,606	28,458	10,994	80,248	16,949	18,882	3,294	220,300	88,422		区

15歳未満の多い西区・北区，65歳以上，高齢世帯の多い兵庫区・長田区

男女別ではいずれの区も女性の方が多く，人口性比では，須磨区が88.5と最も男性の割合が低く，西区が95.8と最も高くなっています。

15歳未満が多いのは西区の18人，北区の16人です。一方，65歳以上については兵庫区23人，長田区22人，中央区20人と3区が20人を超えています。

世帯数は，1人世帯の多い中央区が51世帯と最も多く，西区の34世帯が最も少なくなっています。高齢世帯（65歳以上親族のいる一般世帯）は，老年人口の多い兵庫区，長田区が17世帯と最も多くなっています。兵庫区は，高齢単身世帯も7世帯と最も多くなっています。

昼間人口は就業地としての性格が強い中央区が圧倒的に多く260人となっています。その他，兵庫区130人，長田区105人，灘区101人が100人を超えています。それ以外の区は100人を切っており，垂水区72人，北区76人は，70人台となっています。

図26 区別 年齢3区分別人口(各区100人)

	15歳未満	15～64歳	65歳以上
兵庫区	10	66	23
長田区	12	66	22
中央区	10	70	20
灘区	11	70	19
垂水区	14	68	17
須磨区	14	70	16
北区	16	69	15
東灘区	14	71	15
西区	18	70	12

図27 区別 65歳以上人口割合の推移

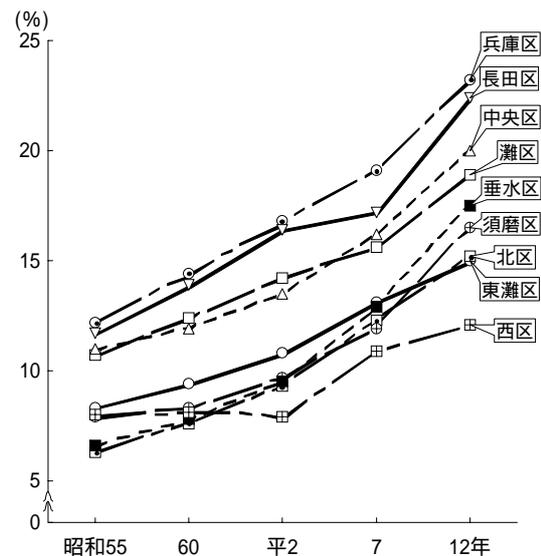


表21 区別 65歳以上人口の推移

区	指数(平成12年各区総人口100人)					実数					各年総人口に占める割合(%)				
	昭和55年	60年	平成2年	7年	12年	昭和55年	60年	平成2年	7年	12年	昭和55年	60年	平成2年	7年	12年
全 市	8	10	11	13	17	123,263	142,488	169,316	192,703	252,427	9.0	10.1	11.5	13.5	16.9
東 灘 区	8	9	11	11	15	15,212	17,400	20,498	20,573	28,715	8.3	9.4	10.8	13.1	15.0
灘 区	13	14	15	13	19	15,216	16,548	18,340	15,183	22,768	10.7	12.4	14.2	15.6	18.9
中 央 区	12	13	14	16	20	12,735	14,184	15,657	16,784	21,613	11.0	11.9	13.5	16.2	20.0
兵 庫 区	16	18	19	18	23	17,366	18,826	20,766	18,926	24,841	12.2	14.4	16.8	19.1	23.2
北 区	5	6	8	13	15	10,397	13,454	18,515	28,341	34,221	6.3	7.6	9.3	12.3	15.2
長 田 区	18	20	21	16	22	19,148	20,598	22,494	16,673	23,588	11.7	13.9	16.4	17.2	22.4
須 磨 区	7	9	10	12	16	12,302	15,055	18,179	20,933	28,647	7.9	8.3	9.7	11.9	16.5
垂 水 区	6	8	10	14	17	13,944	17,437	22,294	31,044	39,576	6.6	7.8	9.5	12.9	17.5
西 区	3	4	5	10	12	6,943	8,986	12,573	24,246	28,458	8.0	8.1	7.9	10.9	12.1